

ファカルティ・ディベロップメントの概要

1. 実施報告

全学FD委員会における2025年度の主な活動は「授業評価」「授業公開」「FD・SD大学問題研究会」の3点である。今年度は、委員会の会議をはじめとして、各種研修会を対面形式で実施した。

一昨年度から開始した「学生が選ぶ教員表彰」制度の実施については、全ての教員を対象に学生による「授業評価アンケート」の結果が極めてよいと認められた教員を表彰することにより、教員の教育研究への動機付けとし、学生には、+1（プラスワン）のより質の高い授業の提供、学習効果の向上に寄与することを目的として実施した。第2回目の2025年度は、2024年度の「授業評価アンケート」結果から候補者を選び受賞者3名の選出、表彰を行った。

授業評価の中心的な取り組みである「学生による授業評価アンケート」は、例年通り総合教育システムを使用してWeb上で実施した。総合教育システムはUNIVERSAL PASSPORTの授業評価アンケート機能を使用した。アンケート結果に基づく教員による学生へのフィードバックコメントの提出は、例年通りアンケートフォームを使用した。

授業公開に関して昨年度同様、公開期間を前期（6月）から後期（12月末）までの期間において実施した。また昨年度同様、事前に授業担当者と相談することにより期間外の見学を可能とした。原則すべての授業を対象とした（ネイティブの教員との英会話を主とする「コミュニケーション演習」においては、業者委託による授業であるという事情から対象外とした）。

後期においては、教務課により第7回目の時期に学生の声に耳を傾ける企画を実施した。

主として教室環境についての意見聴取であったが、モスキート音が気になるなどの声が寄せられ、教室環境の整備について新たな検討課題が浮かび上がった。

「FD・SD大学問題研究会」においては、今年度も多岐にわたるテーマで、年間で計5回にわたって開催した。対面形式とともに、オンラインでのライブ配信形式も併用した。さらに、当日の講演会の録面を配信するフォロー研修期間を設定したことにより、より多くの教職員の参加を可能とした。

授業に関する学生・教員交流会は、後期12月において対面形式により実施した。場所は、新たにカフェテリアを活用し、最大人数50名程度を予想したものの、実際には、参加者を募ることに苦労した。会場では、全学FD委員及び、各学科教員の協力により、学生グループをランダムに編成、学生が考える理想の授業についての提案や希望を聞き取った。他学科の学生や教員との交流により、学生たちが互いにどのような学修をしているのかを知る機会となった。学生たちのコメントから、教員の授業運営に関する厳しい視線が改めて浮き彫りとなった。

以上